

学びの向上さいたまプラン（概要）

1 プランの目標

さいたま市教育委員会では、平成20年3月に「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむことを基本理念とする「さいたま市学校教育ビジョン」を策定した。

「学びの向上さいたまプラン」は、「さいたま市学校教育ビジョン」に位置付けられたプランであり、さいたま市立小・中学校児童生徒の「確かな学力」の向上を図ることを目標としている。ここでいう「確かな学力」は、次のように定義する。

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 学習意欲

本プランの施策の指標として、全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査等を活用する。

2 プラン推進に係る国の状況等

(1) 次期学習指導要領が目指す基本的な方向性

- 以下の3点を柱として、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

①「何ができるようになるか」

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

②「何を学ぶか」

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

③「どのように学ぶか」

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善

(2) 国際的な学力調査の結果（TIMSS2015、PIASA2015）

- 小・中学校の算数・数学、理科について、平均点（偏差値化された得点）が過去最高となり、国際順位も全教科で引き続き5位以内に入っている。下位層の割合が減少し、最上位層の割合が増加している。（TIMSS2015）
- 算数・数学、理科について、「勉強が楽しい」と回答した小学生、中学生の割合は、前回調査と比べ増加しており、特に、小学生の理科は前回調査に続き、国際平均を上回っている。一方、中学生は数学、理科ともに前回調査に続き、国際平均よりも低い。（TIMSS2015）
- 我が国の義務教育修了段階（15歳）の生徒の学力は、全体としては引き続き国際的に上位にあるが、読解力の平均得点が有意に低下している。（PIASA2015）
- 科学に興味・関心をもつ生徒の割合は、国際平均と比較すると依然として低いものの、科学の有用性を感じる生徒の割合は、2006年に比べると増加している。（PIASA2015）

3 プランの構成

(1) 本プランを構成する23事業

<指導内容・方法の工夫改善>

- ◎「さいたま市小・中一貫教育」の推進
- ◎全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査等の活用
- ◎「グローバル・スタディ」の推進
- ◎研究委嘱事業、各校における研修の充実
- ◎基礎学力定着プログラムの推進
- さいたま市国語力向上プログラムの推進
- さいたま市理数教育推進プログラムの推進

<教員の指導力の向上>

- ◎「よい授業」の推進
- 指導主事等による学校への訪問指導・支援
- 教員研修の充実
- 特別支援教育の専門性の向上【免許法認定講習（特別支援教育）の実施等】
- 人事評価の活用
- さいたま市CST事業の推進
- 「教師力」パワーアップ講座」の推進

<教育条件・教育環境の整備>

- スクールアシスタントの配置
- 支援教室の活用
- 日本語指導員派遣事業の実施
- 夢工房 未来くる先生 ふれ愛推進事業の推進
- 「自分発見！」チャレンジさいたまの推進
- 「すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上」キャンペーンの推進
- さいたま教育コラボレーション構想の推進（大学との連携）
- 学校図書館教育の充実
- ICT環境の整備

(2) 重点事業

プランを構成する事業の中で、「学力の向上」に強く関連する6事業（◎）を平成29年度の重点事業として展開する。